

業務委託と指定管理

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 司書課程・司書教諭課程研究室 公開日: 2025-01-17 キーワード: 作成者: 田中, 瑞稀 メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/2000508

業務委託と指定管理

田中 瑞 稀

はじめに

私は、図書館業務を受託経営している会社で契約社員として働き始めて2年が経ち、もうすぐ3年になります。もともとは正規の司書を目指していましたが、なかなか内定がもらえず、非正規でもいいから経験を積みたいと思い、今の会社で働き始めました。この約3年間で2回異動し、指定管理館と業務委託館をどちらも経験しました。区をまたいでの異動もしたので、指定管理館と業務委託館の違いなどを、様々な視点から伝えたいと思います。これをご覧になる方の参考になれば嬉しいです。

指定管理館の仕事

- ①カウンター（貸出・返却・予約・利用登録）
- ②配架・予約資料集め
- ③他館からきた予約本の処理、予約本を他館に送る作業
- ④レファレンスサービス
- ⑤相互貸借（他の自治体との本の貸し借り）
- ⑥特集・展示
- ⑦読み聞かせ（子どもから高齢者・障がい者まで対象）
- ⑧イベント開催
- ⑨選書・受け入れ・装備・修理など本の管理
- ⑩各担当業務
- ⑪職場体験 など

指定管理は受託運営している会社のスタッフしか基本いませんので全ての業務を行います。そのため、仕事量が多く感じる人もいます。

私は約2年間指定管理館で働いており、主にAV（視聴覚資料）担当とYA（TS）担当でした。YA（TS）とはヤングアダルト・ティーンズの略称で、主に中学生や高校生の10代の学生に向けたサービスを指します。その年代は部活など学校生活が忙しくなり、図書館から離れがちのため、YA（TS）担当として毎月読書ノートやおススメ本のリーフレットを作成し、来館を増やすためにさまざまなことに取り

組みました。周りのスタッフや実際に利用してくれた方からお褒めの言葉を頂き、やりがいを感じました。

業務委託館の仕事

主に上記①～④の業務です。業務委託は自治体から一部業務を任されている、というようなイメージですので、やる仕事は限られています。業務がパターン化しているため、初めての方でも覚えやすく、慣れやすいです。指定管理館から異動してきた人の中には、物足りなさを感じることもあります。しかし、業務委託の仕事は、その自治体から何をどのように、どこまでやることになっているのか仕様書によって異なります。⑤以降の業務も業務委託館で行うことがあります。現在、私は業務委託館に勤務しており、①～④に加えて⑤相互貸借の一部業務と⑨修理をしています。時間のかかるような難しい④レファレンスや、⑨選書・受け入れなどの事務作業は職員対応です。そのため、基本的にカウンターに入ることが多く、7.5時間勤務のうち平均5時間はカウンターで利用者対応です。指定管理館の時は基本2時間でした。

契約社員と正規職員

最初に述べた通り、私は契約社員として図書館で働いており、メリットだと感じるのは、いろいろな自治体の図書館で働けることです。区の職員として勤務するとなると、他の自治体の図書館を知ることには厳しいのではないのでしょうか。もちろん、研修などで他の自治体の図書館へ行くことはあるかと思いますが、働かなくてはわからないその自治体の特色があり、内情を知るのは難しいでしょう。公共図書館は、オフィス街と住宅街、高齢者と学生、利用が多い時間帯や年齢層によって所蔵や特集、イベントなどは異なります。そのため、さまざまな図書館で働くことのできる今の環境は大変貴重な経験だと思います。

東京都内の図書館では、業務委託館や指定管理館が増えてきており、会計年度任用職員（非常勤）を含め区の職員のみで運営している自治体はかなり少なくなっています。現在、23区では荒川区のみ全館直営です。私の勤務している自治体は、分館は全

て指定管理で、中央館のみ業務委託のため職員が在籍していますが、全体人数約45人中19人のみ。そのうち8人は会計年度任用職員のため、正規職員は11人です。正規の図書館司書はかなり厳しいことが伝わるかと思います。

* * *

図書館で働いていると、いろいろなことが起こります。例えば、利用者同士の喧嘩や、子どもが転んで救急車を呼ぶことも。また、理不尽なクレームを受けることもあります。反対に嬉しいこともあり、子どもが自作の絵本を見せてくれたり、レファレンス対応した時「丁寧にありがとう」と言ってもらえることは、とても励みになります。日々働いていると大変なことばかりですが、好きな仕事だからこそ、経験を積めるとレベルアップしていくようで楽しいです。

一年の中で、8月は学生が夏休みに入るため、図書館は忙しくなります。特に夏休み終わりに近づくと、小学生の読書感想文や自由研究、調べ学習についてのレファレンスをよく受けます。ブックリストに載っているような本は皆さん借りていくため、予

約多数になってしまい、用意できた時には夏休みが終了しています。また、「あまり本を読まない子どもにおススメの本はなにか」と親御さんだけで来館されたときは、絵本や低学年向けの読み物を案内しますが、子どもの意見が聞けないので大変です。心の中で「もう少し早くおいで!」と思ってしまいます。これは司書あるあるかもしれません。

最後に

司書といっても仕事は様々です。憧れの司書になれたとしても理想と現実とは違うかもしれません。実際に、「楽な仕事だと思った」と辞める人がいるそうです。私の経験談はひとつの例ですが、今後司書を目指す方の想像と現実の差を埋め、より具体的に働くことのイメージがわくと幸いです。正規での採用が厳しくて、別の道を選んだとしても、そこでの経験がいずれ司書になった時、活かせるはずですよ。そして、皆さんが今後司書になったら、私の話を思い出し、少しでも共感してくれたら嬉しいです。

(たなか・みずき 東京都立図書館司書
文学部日本文学文化学科卒業)



©なつこ